

サービス提供状況調査結果概要と課題

I 調査の概要

1 調査の目的と方法

- (1) 調査目的
サービスの提供・利用状況や課題を把握し、今後のサービス提供体制整備の参考とする。
- (2) 調査方法 メールによる配付・回収 郵送による配付・回収
- (3) 調査対象 廿日市市内の介護保険事業所等 275
- (4) 調査時期 令和5年3月7日～令和5年6月16日
- (5) 有効回収数 170 (回収率 61.8%)

2 報告書の見方

- 本文及び図中に示した百分比 (%) で示してある数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0% とならない場合がある。
- 2つ以上の回答（複数回答）を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0% を超えることがある。
- グラフ中の「n」は質問に対する回答数であり、100.0% が何事業所の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

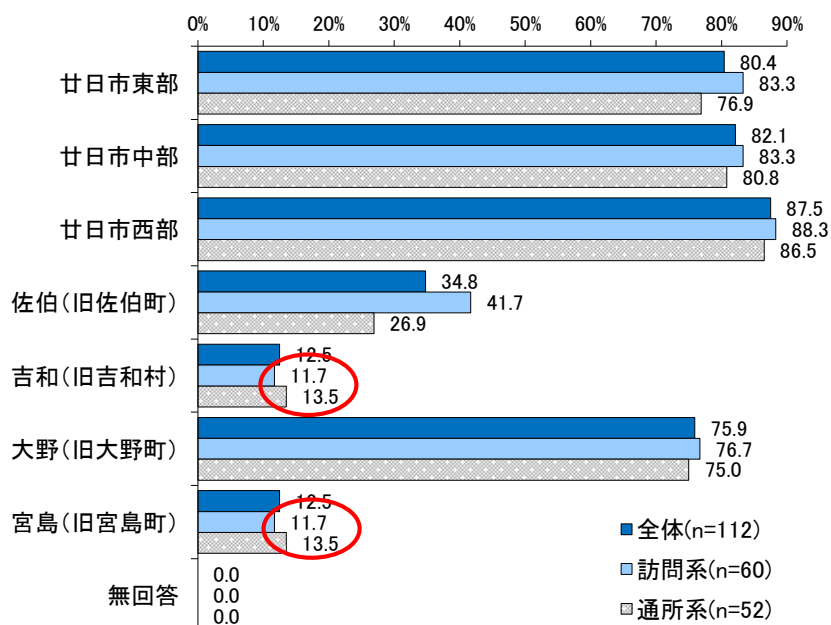
Ⅱ サービス提供状況調査結果

1 事業の実施区域（訪問系・通所系サービスのみ）

(1) 通常の事業の実施区域

- 訪問系では、吉和圏域、宮島圏域の割合がともに11.7%と低くなっている。
- 通所系では、吉和圏域、宮島圏域の割合がともに13.5%と低くなっている。

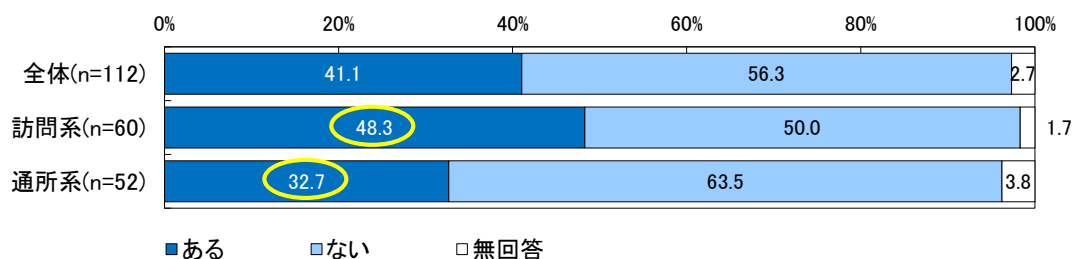
【通常の事業の実施区域】



(2) 提供・送迎できない地区の有無

- 提供・送迎できない地区が「ある」と回答した事業所の割合は、訪問系で48.3%、通所系で32.7%となっている。

【提供・送迎できない地区の有無】



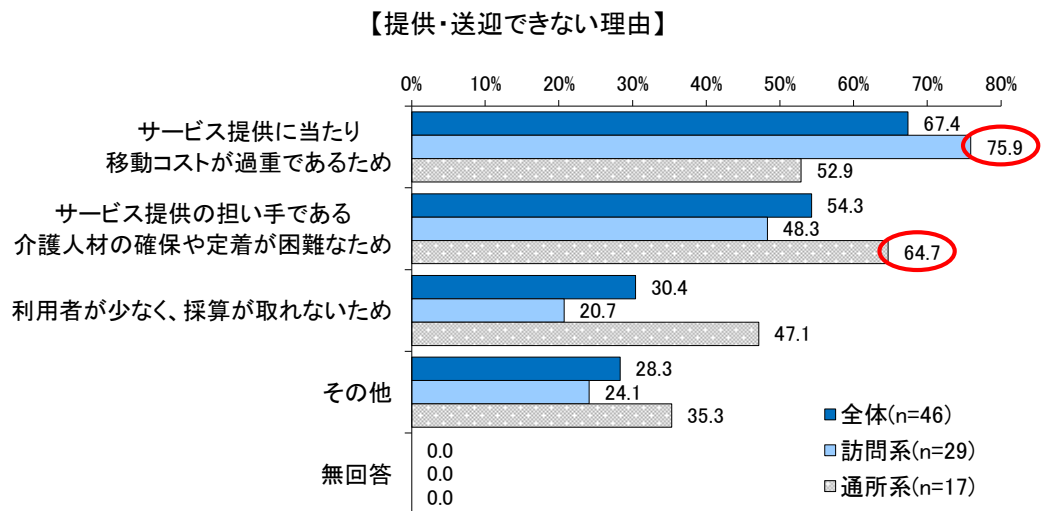
(3) 提供・送迎できない地区

- 提供・送迎できない地区について、「佐伯」と回答した事業所が 15 件、「吉和」と回答した事業所が 16 件、「大野」と回答した事業所が 11 件、「宮島」と回答した事業所が 20 件となっている。

提供・送迎できない具体的地区名	
〈廿日市中部〉	・宮園
〈佐伯〉	・おおむね友田まで ・栗栖、飯山 ・峠を除く佐伯地区 ・浅原、玖島(一部)
〈大野〉	・おおむね大野中央まで ・八坂 ・渡ノ瀬 ・前空より西側は送迎していない ・大野浦駅より西方面

(4) 提供・送迎できない理由

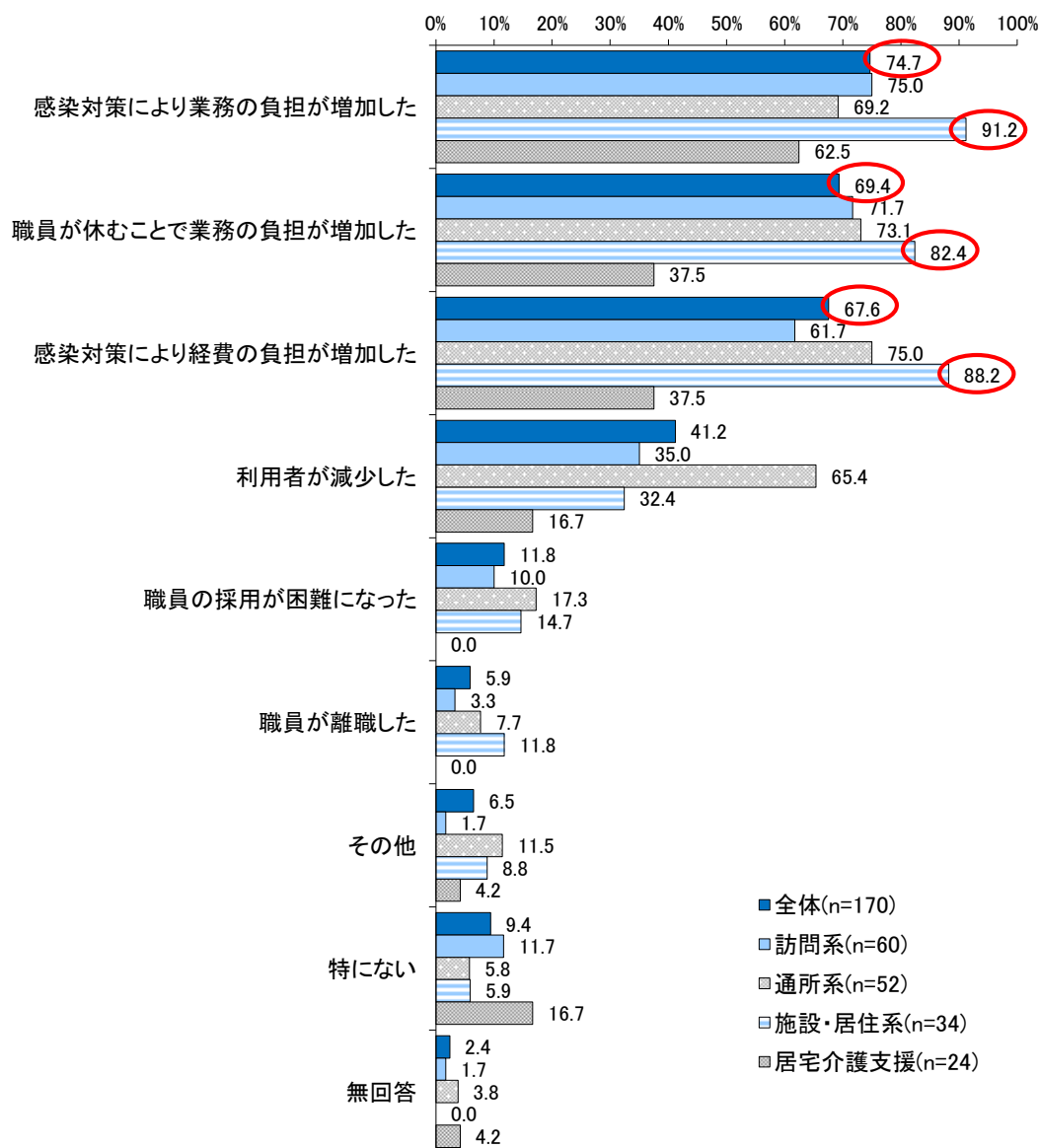
- 提供・送迎できない理由について、訪問系サービスでは「サービス提供に当たり移動コストが過重であるため」が 75.9%で最も高く、通所系サービスでは「サービス提供の担い手である介護人材の確保や定着が困難なため」が 64.7%で最も高くとなっている。



2 新型コロナウイルス感染症の影響

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響について、「感染対策により業務の負担が増加した」が74.7%と最も高く、「職員が休むことで業務の負担が増加した」(69.4%)、「感染対策により経費の負担が増加した」(67.6%)が続いている。
- ▶ サービス種別にみると、施設・居住系で「感染対策により業務の負担が増加した」、「職員が休むことで業務の負担が増加した」、「感染対策により経費の負担が増加した」のいずれの割合も高くなっている。

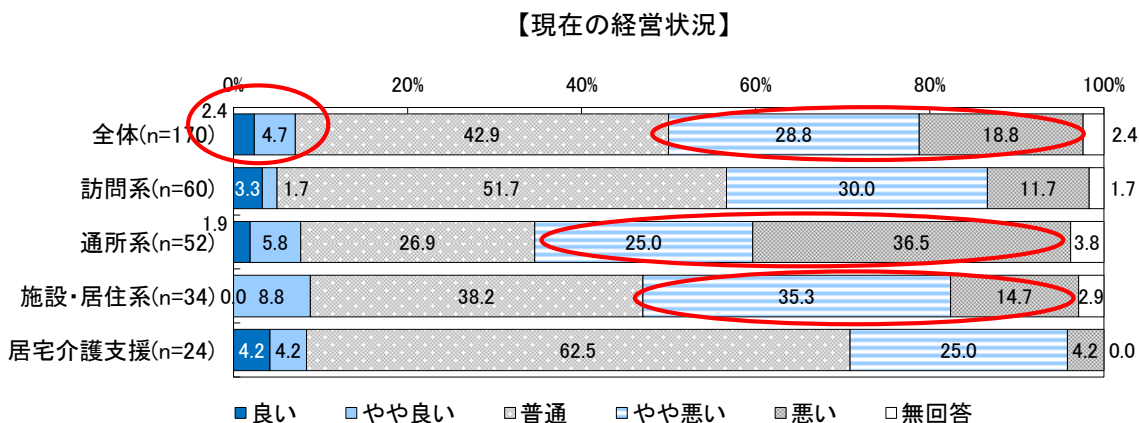
【新型コロナウイルス感染症の影響】



3 経営状況

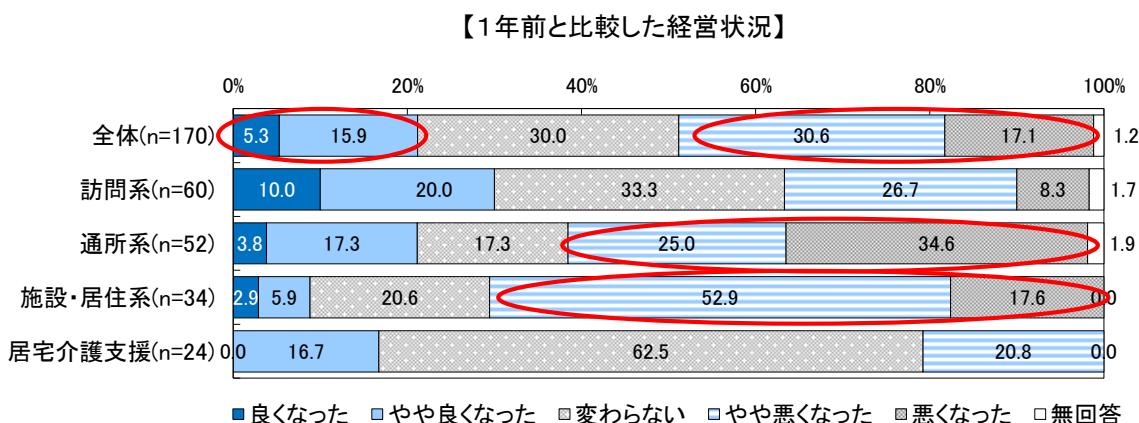
(1) 現在の経営状況

- 現在の経営状況について、『良い』（「良い」+「やや良い」）と回答した事業所の割合が7.1%、『悪い』（「悪い」+「やや悪い」）と回答した事業所の割合が47.6%となっている。
- サービス種別にみると、『悪い』と回答した事業所の割合は、通所系で61.5%、施設・居住系で50.0%と高くなっている。



(2) 1年前と比較した経営状況

- 1年前と比較した経営状況について、『良くなった』（「良くなった」+「やや良くなった」）と回答した事業所の割合が21.2%、『悪くなった』（「悪くなった」+「やや悪くなった」）と回答した事業所の割合が47.7%となっている。
- サービス種別にみると、『悪くなった』と回答した事業所の割合は、通所系で59.6%、施設・居住系で70.5%と高くなっている。



4 ケアプランの作成における課題（居宅介護支援事業所のみ）

(1) 自立支援に資するケアプランの作成で困難な点

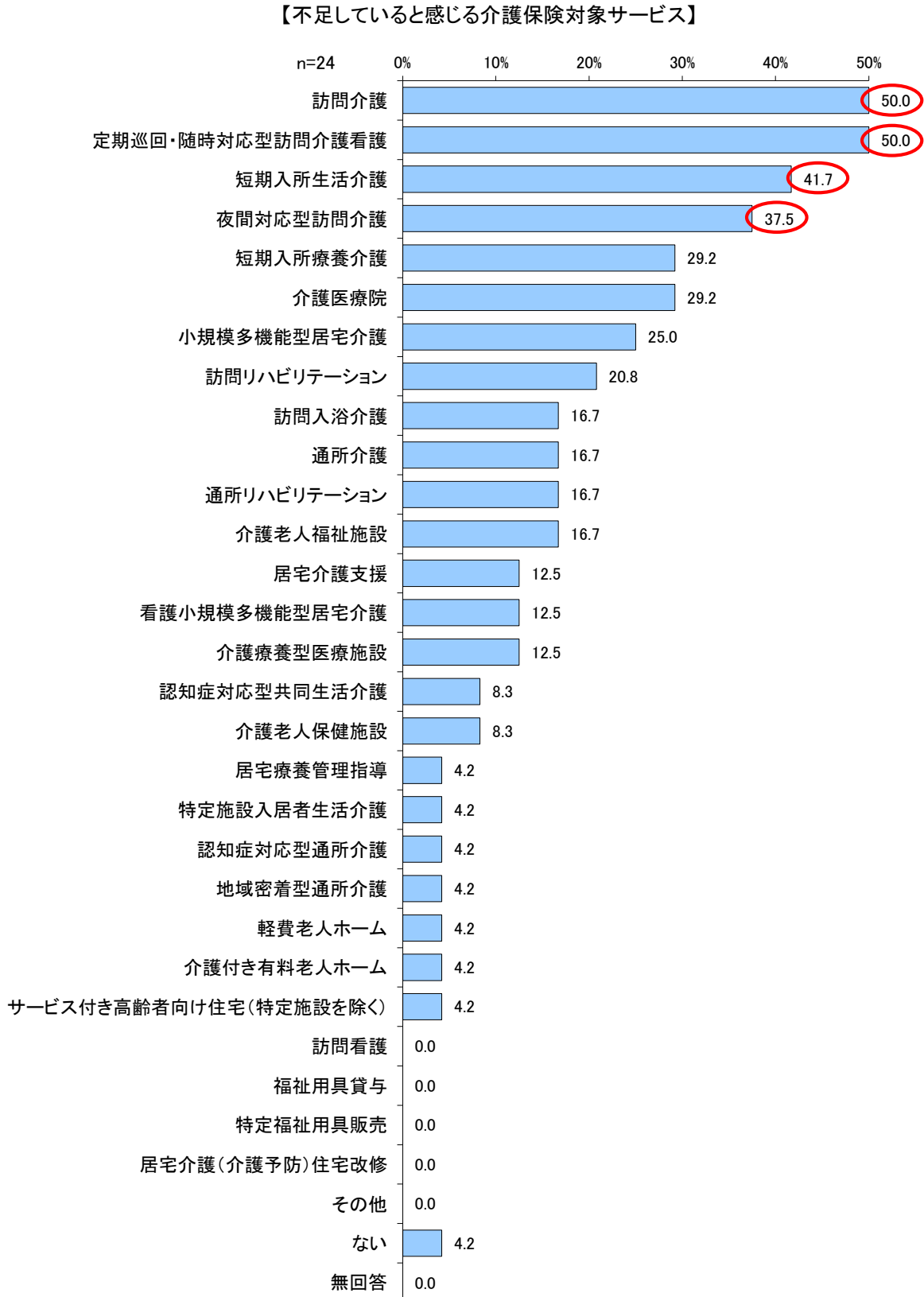
- 自立支援に資するケアプランの作成で困難な点について、「利用者と家族の意見に違いがあり、調整が難しい」が79.2%と最も高く、「必要なサービスが地域に不足している」（54.2%）、「業務多忙で、全員のケアプラン（長期目標、短期目標、援助内容等）を十分に作成できない」（50.0%）が続いている。

【自立支援に資するケアプランの作成で困難な点】



(2) 不足していると感じる介護保険対象サービス

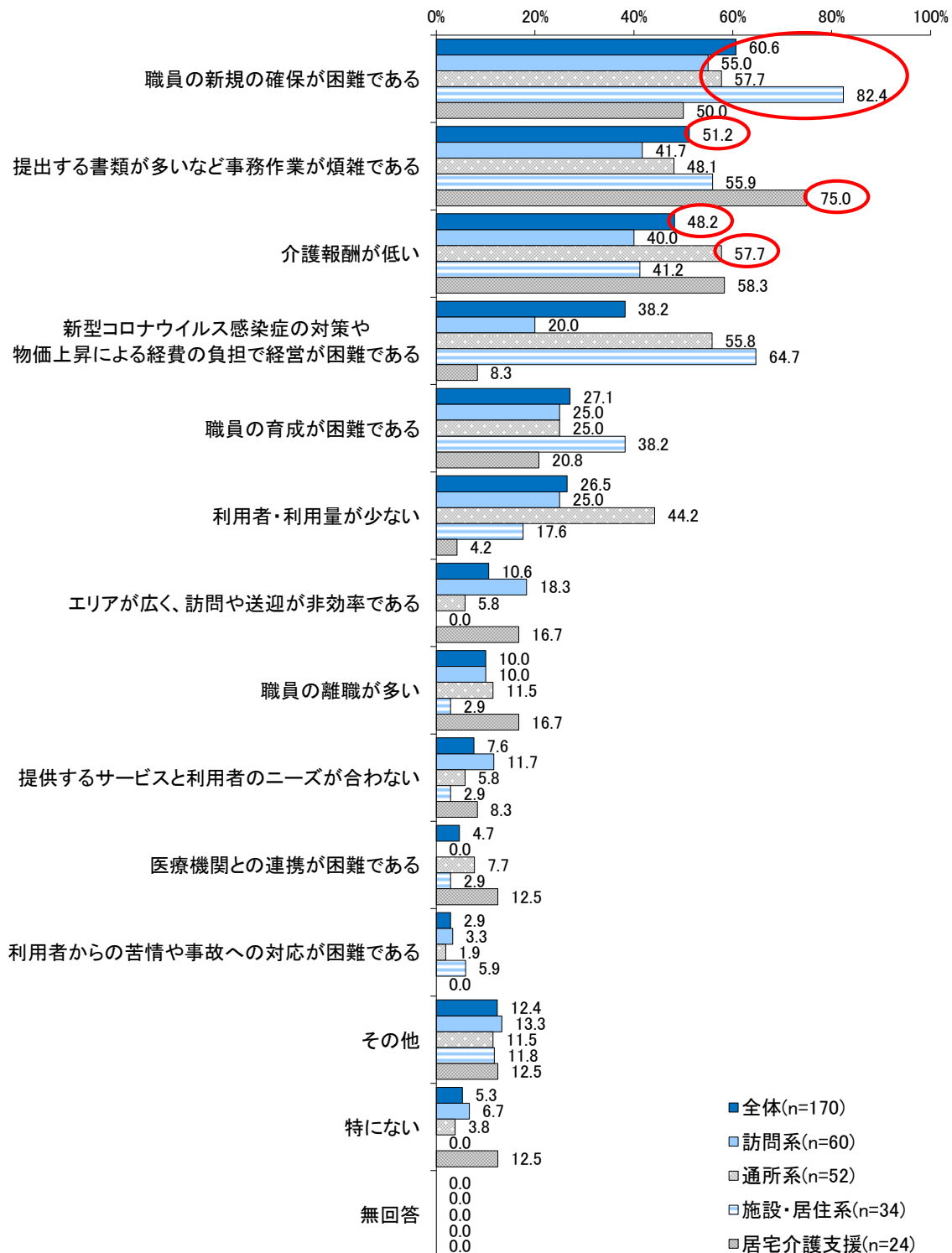
- 不足していると感じる介護保険対象サービスについて、「訪問介護」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が50.0%と最も高く、「短期入所生活介護」(41.7%)、「夜間対応型訪問介護」(37.5%)が続いている。



5 サービスの提供を継続していく上での課題

- ▶ サービスの提供を継続していく上での課題について、「職員の新規の確保が困難である」が60.6%と最も高く、「提出する書類が多いなど事務作業が煩雑である」(51.2%)、「介護報酬が低い」(48.2%)が続いている。
- ▶ サービス種別にみると、訪問系、施設・居住系では「職員の新規の確保が困難である」、通所系では「職員の新規の確保が困難である」とともに「介護報酬が低い」、居宅介護支援では「提出する書類が多いなど事務作業が煩雑である」が最も高くなっている。

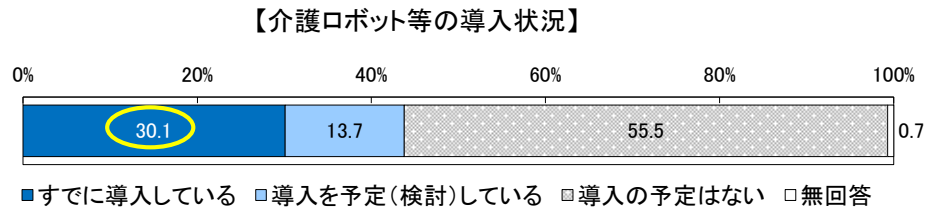
【サービスの提供を継続していく上での課題】



6 介護ロボットやICT機器等の導入状況

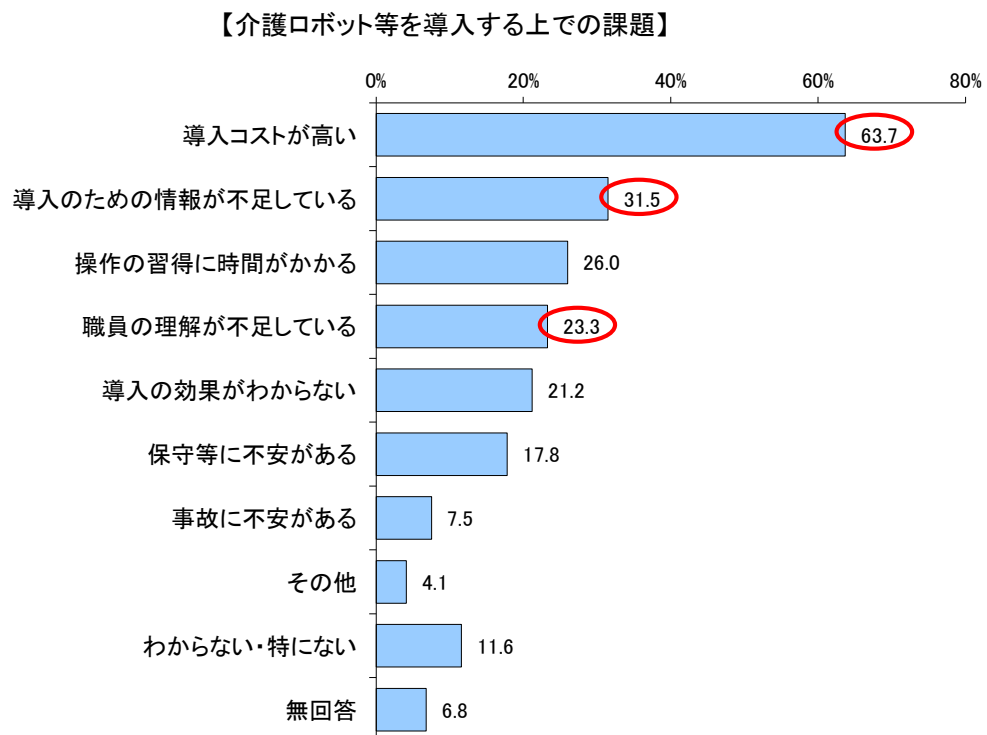
(1) 介護ロボットやICT機器等の導入状況

- 介護ロボット等の導入状況について、「すでに導入している」と回答した事業所の割合が30.1%となっている。



(2) 介護ロボット等を導入する上での課題

- 介護ロボット等を導入する上での課題について、「導入コストが高い」が63.7%と最も高く、「導入のための情報が不足している」(31.5%)、「操作の習得に時間がかかる」(26.0%)が続いている。



[検討すべき課題]

訪問系サービス、通所系サービスの提供が少ない日常生活圏域があり、また、居宅介護支援事業所が地域に不足していると感じているサービスが多くあった結果となっている。

地域のニーズと提供状況を的確に把握し、今後必要なサービス提供体制を整備するとともに、人口が少ない地域においても、必要なサービスを提供できる体制を維持するため、地域の事業所と連携を図って取り組むことが重要である。

また、現在の経営状況が悪いと回答した事業所、1年前と比較して経営状況が悪くなったという事業所ともに5割に近く、サービスの提供を継続していく上での課題として職員の確保や事務作業の煩雑さ、介護報酬の低さ、新型コロナウイルス感染症の対策の負担などが挙げられていることから、人材確保や介護ロボットやICT等の導入、感染症への対策への支援等、サービス提供の継続に向けた取組が重要である。